

輸入届出が出された未判定外来生物に係る
情報及び評価（案）

1. アフリカヒキガエル (*Sclerophrys regularis*, *Amietophrynus regularis*,
Bufo regularis)

アフリカヒキガエル (*Sclerophrys regularis*, *Amietophrynus regularis*, *Bufo regularis*) に関する情報

○分類 無尾目ヒキガエル科

○評価 特定外来生物

○生態系被害防止外来種リスト — (掲載なし)

○原産地 サハラ砂漠、カラハリ砂漠など極端に乾燥した地域を除くアフリカ大陸に広く分布する。

○定着実績 日本での定着は報告されていない。

○評価の理由

アフリカ大陸に広く分布するヒキガエル類であり、分布域が熱帯に限定されているわけではないため、本種が我が国に侵入すれば野外に定着する可能性がある。旧ヒキガエル属 (*Bufo* 属) のカエル類は中大型の種が多く、共通して比較的乾燥に強く、食性の幅が広く、多産であり、皮膚に毒を持つという性質のためさまざまな環境に適応・定着する可能性が高く、捕食や在来ヒキガエル類との競合により生態系への被害を及ぼすおそれがある。

○被害の実態・被害のおそれ

【生態系に係る被害】

- 原産地の気候条件を考慮すると、日本の温暖地域に定着するおそれがある。
- 捕食や競合、皮膚から分泌される毒(ブフォトキシン等)などにより、在来生物群集に悪影響を及ぼす可能性がある。

○被害をもたらしている要因

- 主に熱帯域に分布している種であり、温暖地の気候に適応する可能性がある。
- サバンナ地帯に広く生息し、さまざまな昆虫をはじめ多種のカエル類、トカゲ類など幅広く捕食する。水たまりなどの浅い止水に、一度の産

卵で約 25,000 個の卵を産出するとされる (Pinaar et al., 1976)。

- アンダマン・ニコバル諸島（インド半島東に位置）に 1922 年に持ち込まれ定着している (Lever, 2003)。またレユニオン島とカーボベルデの各島に導入されている (Amphibian Website)。

○特徴並びに近縁種、類似種などについて

- 中型から大型になるヒキガエルで、頭胴長がオスは 62–91 mm、メスは 70–130 mm ほど。
- 頭頂部には特徴的な十字形の明色の模様があり、目の間に顕著な横線と細い矢状帯がある (Pinaar et al., 1976)。
- 在来のヒキガエル類と類似するが、体色や大きさ、背部の模様の特徴などから区別できる。

○その他の関連情報

- 本種の学名について、現在は *Sclerophrys regularis* を用いることが多いが、かつては *Bufo regularis* や *Amietophrynus regularis* を用いることが多かった。なお、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（通称「外来生物法」）関係法令においては、旧ヒキガエル属（*Bufo* 属）に属する種の学名に関して「*Bufo*」の表記が用いられている。
- 旧ヒキガエル属（*Bufo* 属）のカエル類は、中大型であり、比較的乾燥に強く、食性の幅が広く、多産であり、皮膚に毒を持つという性質のため、オーストラリアなどを除く世界中に分布している。これらの特徴により、人為的に導入された地域の環境に適応し定着したと考えられる例が世界的にいくつかある。(Van Bocxlaer et al., 2010)
- 例えば、特定外来生物のオオヒキガエル (*Bufo marinus*; 現在は *Rhinella marina* とされることが多い) は頭胴長 90~150 mm に達し、害虫駆除のために多くの地域に導入され、日本では南西諸島や小笠原諸島に定着している。昆虫類を始めとする地表性の小動物を貪欲に捕食し、また体表から出る毒（ブフォトキシン等）によって希少種を含む捕食者に影響を与え得るとされる（自然環境研究センター（編著）(2019)）。

○主な参考文献

Amphibian website [*Sclerophrys regularis*]. URL <https://amphibiaweb.org/species/268> (閲覧日 2023 年 12 月 14 日)

- Van Bocxlaer, I., Loader, S. P., Roelants, K., Biju, S. D., Menegon, M., & Bossuyt, F. (2010) Gradual adaptation toward a range-expansion phenotype initiated the global radiation of toads. *Science*, 327(5966), 679–682.
- GBIF Secretariat: GBIF Backbone Taxonomy. *Bufo regularis* Reuss, 1833 (2023). Checklist dataset <https://doi.org/10.15468/39omei>. URL: <https://www.gbif.org/ja/species/5217100> (閲覧日 2023 年 12 月 13 日)
- IUCN SSC Amphibian Specialist Group (2016). "*Sclerophrys regularis*". IUCN Red List of Threatened Species. 2016: URL <https://www.iucnredlist.org/species/54747/107349840> (閲覧日 2023 年 12 月 13 日)
- Lever, C. (2003). Naturalized reptiles and amphibians of the world. Oxford University Press. NY, USA. 176pp.
- 日本爬虫両棲類学会 (編集代表: 松井正文・森 哲) (2021) 新 日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版株式会社, 滋賀県, 234pp
- Pienaar U.deV., Passmore N.I. and Carruthers V.C. (1976) The frog of the kruger national park. National Parks Board of South Africa, South Africa. 17pp.
- 自然環境研究センター (編著) (2019) 最新 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 591pp.